

1 ベティ・ムートのバラッド

心優しいベティ・ムートが  
ラーウィックへ出航、その地の店へ  
手編みのショール、ストッキング、帽子を携えて。

不自由な足で辛抱強いベティは  
コロンバイン号の船室の中、  
風と船員が上で叫んでいる。 5

訝るベティ、  
軋む船の中、上下にうねる海の中  
折れた帆柱の下。

闇の中のベティ、海の牢の中、  
手許には一切れのビスケット、  
慰めの聖句が一節、二節。 10

ベティ、いま亡霊が舵輪を握っている。  
船長は、  
もはやヒトデや波しぶきと一体となる。  
女たちが遠く背後の海岸で哭いている。 15

勇敢なベティ・ムート、彼女は思い出す  
神が計画した、他の航海を、  
大鳥や鳩と一緒にノアや、  
鯨の腹の中のヨナを。 20

何艘もの船が大きく輪を描いて搜索する、男たちが  
嵐に向かって破城槌の頭を乱打する。  
何も見えない一灰色の浮遊物、冷たい波しぶき。

ベティは口をミルクで湿らす。  
そして<sup>ミュー・エルサレム</sup>天上の都を考える、嵐はもうたくさん。 25  
「わたしはほんとうに潮位標や潮だまりが好きだったわ。」  
ベティは夢を見る。大洋は一枚の布

クジラ、ニシン、ロブスター、クラゲ、フナノリ、カモメ、  
カサガイ、ホシが縫い込まれ  
天上の都の壁に掛かっている、  
まるでタペストリのよう  
サムバラのブルース氏の館の、  
波打つ光輝、虫食いのない不滅の織物。 30

美しく信仰深い老女、ベティ・ムート、  
亡霊が舵柄を操作していなかった、  
天使が狼の群れなす大洋の中コロンバイン号を導いた。 35  
ノルウェイの峡湾フィヨルドの人たちが  
あなたを見つけ、抱いて火と食べ物でもてなすのだ、いまだに  
クローヴァーの甘い香りがする籠を持つあなたを。

(川畑彰訳)